



区民
かわら
版

山科区出身の **松井大輔選手** に
京都市スポーツ栄誉賞

今年6月、南アフリカ共和国で開催されたサッカーワールドカップにおいて、大活躍した松井大輔選手に、7月9日、母校である大宅小学校で、門川京都市長から京都市スポーツ栄誉賞が授与されました。授賞式には大宅サッカースポーツ少年団の子どもたちをはじめとする同小学校の児童が出席し、偉大な先輩に惜しみない拍手を送りました。
市長から「みんなに夢をありがとう」と



お祝いの言葉と賞状、メダルを授与された松井選手は、子どもたちと一緒に校歌を歌った後、「みんなも先生の言うことを良く聞いて、夢を持って一つ一つ頑張ってもらいたい。僕も応援している。」とエールを送りました。
松井選手は、平成14年度に「第1回やまのしんぶん栄誉賞」も受賞されています。
問合せ先 区総務課(☎592-3066)、区まちづくり推進課(☎592-3088)

第60回 **「社会を明るくする運動」山科区大会**
—犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ—

法務省主唱の「社会を明るくする運動」は今年節目の60回を迎え、「更生保護の日」である7月1日からの1カ月を強調月間として、全国でさまざまな活動が実施されました。
今年度の山科区大会は、民放報道番組で活躍するアナウンサー山本浩之氏による講演をはじめ、小中学生による合唱、演奏などを行います。
講演では、私たちの暮らしを取り巻くさまざまな出来事や最新のニュースをもとに、今私たちに必要な行動や、失ったものを取り戻すための方法論についてなど、楽しい

話題を絡めた講演を予定しています。また今回は、子どもたちの健やかな成長を支援し、非行や不登校、ひきこもり、いじめなどのない明るい社会をつくることを目的に活動する、京都中央BBS会の活動を紹介します。
日時 8月29日(日) 午後1時30分～
場所 東部文化会館(柳辻西浦町)
内容 【一部】式典
【二部】○山本浩之氏による講演
「いま、守らなければならないもの」



山科経済同友会創立40周年記念事業
**JR山科駅前にスタンディング
バスケット花壇が設置されました**

山科駅前に、鮮やかな赤や白のペゴニアなどが咲き誇り、駅前を行き交う人たちの目を引いていたバスケット花壇をご存知の方も多いのではないのでしょうか。



この花壇は、6月11日、山科経済同友会創立40周年記念事業として、JR山科駅前広場、ロータリーの2カ所に設置されたものです。除幕式後に飾られた花壇の花々は、山科の玄関口に華やかさを添え、多くの方々の心を和ませてくれました。
7月下旬には、花の入れ替え作業にご協力いただいている「花と緑のまちづくりサポーター」の皆さんにより花壇の刈り込みが行われました。今後、新しい芽が吹き、美しい花が咲き誇り、駅前広場を彩ってくれることでしょう。
駅前へお立ち寄りの際は、花壇に咲く愛らしい花をぜひご覧ください。

問合せ先 区まちづくり推進課(☎592-3088)

○BBS会の活動発表「知っていますか!? BBS!!」
○百々小学校 4年生による合奏合唱
○音羽中学校 吹奏楽部による演奏

みんなでつくろう
新しい山科区基本計画

2 環境、交通・都市基盤

新しい山科区基本計画をつくるため、高校生の皆さんに「環境」について、また、鏡山小学校のPTAの皆さんに「交通・都市基盤」についてご意見を伺いました。

●環境

山科のいいところ！

・ウグイスの鳴き声が間近で聞ける。当然のように自然があるところ。
課題だと思ふところ
・部活で疏水沿いの清掃活動を行っているが、タバコの吸殻が多い。



洛東高校の皆さん

・区内の川には、大型ゴミが多い。今、環境を守るために取り組んでいること



一斉地域清掃の様子

・委員会や部活でペットボトルのキャップを集めている。1つは1円に満たないがゴミがお金に変わる。
・分別の徹底。卵のパックや紙箱は切ったり重ねたりして減量。
こうしたらもっとよくなる
・外国のように車のナンバープレートは奇数・偶数で車の使用日を

決め、CO₂削減。

・地域の清掃をしたら、ゴミ袋をもらえるなどの特典を。
・公園、駅、川にゴミ箱を増やす。

●交通・都市基盤

課題だと思ふところ

・西野道、渋谷街道、大石道などが抜け道として使われており、歩道、車道が分けられていないので危険。
・観光地や商業施設が密着している箇所は危険なポイント。
・ある地点まで行かなければ、バスがないので不便。主要駅へ行く手段がない。
・区内の地下鉄の開通に伴う市バスの撤退により、住民の生活に合わせた路線がなくなり不便になった。
・市バスがないため、バスの子どもの運賃が無料になる「市バスeco



鏡山小学校PTAの皆さん

(エコ)サマー”のサービスが受けられない。

こんな対策を

・醍醐のようにコミュニティバスがあれば。
・時間帯による制限、路面ペイント、一方通行などの対策を。
・朝だけでなく放課後も子どもを見守るボランティアがほしい。

若い目線からのご意見、また交通では、日々感じておられる切実なご意見が寄せられました。

問合せ先 区総務課企画広報担当(☎592-3066)

締め切り迫る！ 8月31日まで 「新・山科区基本計画」に対するご意見、山科の将来の姿が分かるキャッチフレーズをお寄せください！

山科の魅力
“ええとこ・ええもん”
第2回 山科に残る戦争の記憶

今年で終戦から65年。今では戦争があったことを普段の生活で意識することも少ないかもしれませんが、山科にも戦争の跡を示すものが残されています。

山階小学校の北校舎の屋上には、空襲の時に警報音を鳴らす「防空用サイレン」があります。昭和12

(1937)年に当時の陸軍が設置し、現在、京都市内でたった一つ残っているもので、当時の姿を現在に留めています。



また、山階小学校の近くに、写

真のような石の台座があります。ここにはもともと、上に蓮如上人の銅像が置かれていました。彫刻家高村光雲氏が監修し、大阪の鉄鋼業者・由井卯三郎氏によって、御廟所と東御坊、西御坊の中間点に昭和9(1934)年に建立されました。高さ11メートルもある高い像だったので、当時の山科駅のホームからも見えたそうです。しかし、この像があったのは



現在

わずか10年ほどの間だけでした。戦局の悪化のため、物資の調達が必要となり、昭和19(1944)年、銅像が兵器の材料として供出され、現在のような姿になったのです。

それから60年以上の年月が流れ、主を失った台座だけが、何も言わず戦争の傷跡を今に伝えています。
問合せ先 区まちづくり推進課(☎592-3088)



1934(昭和9)年